

令和6年度 岐阜市障害者総合支援協議会 専門部会（テーマ別分科会） 下半期 実績報告

◆第5回

日時	令和6年11月26日（火） 午後 3：30～午後 5：00
場所	市役所6－1大会議室
テーマ	医療的ケア児・者及びその家族が安心して暮らすために～社会資源等とのつながり～
参加	関係団体 7名 関係機関等 7名 一般・特定・障害児相談支援事業所 16名 委託事業所 4名 （合計 34名）
内容	昨年度、医療的ケア児に関する実態把握のため、相談支援事業所及び障害児通所施設・入所施設、短期入所施設を対象に実施したアンケートの結果と岐阜市における相談窓口等の報告、当事者団体から実際の生活等を知る機会とした。 医療的ケア児等及びその家族、医療・福祉・教育等の関係者が利用していくうえで必要と思われる情報を出し合い、多くの方が有効的にその社会資源を活用するための方策を協議した。
成果	・社会資源の利用につながっていくよう、医療機関へ相談窓口の情報を発信していく。教育・福祉・医療など多機関にまたがるため、相談窓口間でも連携していく。また、医療的ケア児等コーディネーターの活躍を期待する。 ・時代に合わせた多様な周知方法等が必要である。 ・ワンストップで支援が受けられるような相談先があるとよい。

◆第6回

日時	令和6年12月10日（火） 午後 3：30～午後 5：00
場所	市役所6－1大会議室
テーマ	災害時の支援について ～ 防災対策と個別避難計画 ～
参加	一般・特定・障害児相談支援事業所 17名 委託事業所 4名 （合計 21名）
内容	2011年の東日本大震災では、障害者手帳を持つ人の死亡率が全住民の死亡率の2倍に上ったとの調査結果があり、2016年の熊本地震でも多くの障がい者が必要な支援を受けられずに孤立した。また、能登半島地震では長引く避難生活で、生活環境が悪化し、大きな負担となっている。 令和4年度第7回専門部会で緊急時や災害時に活用できるサポートブックの内容について協議を行い、令和5年度第1回では、サポートブックの活用方法について協議を行ってきた。 今回は、岐阜市における防災対策について、都市防災部防災対策課からの説明と災害時を想定した個別避難計画の作成について協議した。
成果	・様式は、三障害に対応したもので、配慮がわかるように色分けし、写真や処方箋等を添付する欄があるとよい。 ・作成の優先順位等を示し、必要性を伝えつつ、本人とその家族や支援者等に同意を得られやすくする必要がある。 ・負担のないように作成していくため、受け持ちケースの中の優先順位や他の計画や様式と一体化できるところも検討しておけるとよい。 ・作成して終わりではなく、実行性のあるものにするため、地域の方や支援者等と一緒に作成することもよい。 ・作成することで必要な設備等が見えてくるため、防災を考えるきっかけとなる。

◆第7回

日時	令和 7 年 1 月 3 0 日（木） 午後 3 : 3 0 ~ 午後 5 : 0 0
場所	市役所 6 - 1 大会議室
テーマ	強度行動障がいへの対応について
参加	関係機関 1名 一般・特定・障害児相談支援事業所 16名 障害福祉サービス提供事業所 18名 委託事業所 4名 （合計 39名）
内容	これまでに強度行動障がいの支援体制・人材育成等について協議し、岐阜市における支援の在り方・チーム作りについて協議してきた。 今回は、強度行動障がい者等への支援について、各事業所での受け入れを促進していくために、関係機関と円滑な情報共有と連携の方法、強度行動障がい児者対応チーム支援の展開や必要な支援体制について協議した。
成果	・様式を使用することで、利用者を客観的にアセスメント、行動分析ができる。その利用者の特性の理解に繋がる。まずは記録するところから始めるとよい。 ・客観的な記録があることで、支援者同士が共有できるツールとなり、利用者の行動分析ができる。その情報をもとに効果的な支援方法を検討することができる。 ・チーム支援を通して、本人が安心して過ごせるようになり、また、強度行動障がい児者を支援できる事業所が増えるという。